

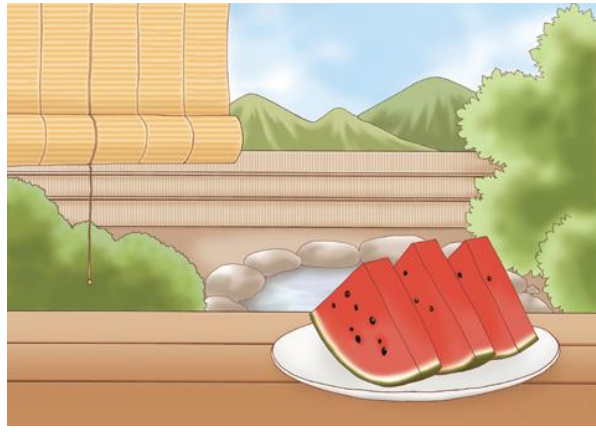
宿縁

八月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号
浄土真宗
本願寺派
中原寺
TEL 0477-372102
FAX 0477-372102

なぜ「無量寿経」

なのか？



千年の古都京都。その駅近くに広大な寺域と阿弥陀堂・御影堂(真宗本願)の両堂を中心とした大伽藍が目に入るのが真宗大谷派の本山・東本願寺です。

ちなみに東本願寺から徒歩で十分ほどの堀川通りに面して同様な伽藍と寺域を持つのが私たち浄土真宗本願寺派の本山・西本願寺です。

両本願寺は、親鸞聖人のお姿(御真影)を安置する御影堂と、御本尊阿弥陀如来を安置する阿弥陀堂の両堂を中心とする境内ですが、東本願寺は江戸時代に四度の火災に遭い、焼

失しました。現在の建物は、明治時代に再建されたものですが、国の重要文化財に指定されています。

そして生きとし生ける人々をわけへだてなく救うという浄土真宗の教えを説かれる道場である御影堂へと導く門が「御影堂門」です。1911年(明治四十四年)再建された国内最大級の二層門です。その楼上の堂内には浄土真宗の根本の経典であり、阿弥陀仏の本願が説かれた『仏説無量寿経』の場面が表わされた三尊像が安置されています。それは、釈尊が弟子の阿難尊者に対して、阿弥陀仏の本願と名号によってすべてのものが間違はなく浄土に救われることを説き、いかなる時代においてもこの教えを留めおかれるよう、弥勒菩薩に与え託したことを表わしたのがこの三尊像なのです。

一般公開されていませんので、直に見ることが叶わないのがまことに残念です。しかし他の社寺と違い、仏の教えを聞き、わが身が救われる教えに出会う場所として存在していることを改めて気づかされてうれしくなります。

釈尊の説かれた「さとりの道(説法)」はお弟子からお弟子へと伝承され、後に数多くの経典として世界各地に伝播されました。一切経ともいわれる中で、親鸞聖人はその主著『教行信証』の「教巻」のはじめに、「それ真実の教を顕さば、すなはち『大

無量寿経』これなり。」

と示され、すべての人たちが救われる真実の教えはこのお経であると申されました。

そこで今回は「経典(お経)」とは何を意味するのか、またなぜ無量寿経なのかを考えてみましょう。

お釈迦さまはさとりの(迷いが解けて真理に目覚めること)の内容を応病与薬といって、人びとの素質・能力に応じてその教えを説いたので後に多くの経典に表されました。世間では、お経といえはすべて死んだ人に向けるもののように思われていますが、お経は死人にあげるものではありません。悩み苦しむ人生を生きるこの私が救われる道一つです。

現在、一般によく知られている「般若心経」は、わが浄土真宗では読誦いたしません。勿論経典に善し悪しはありませんが、その教導が「この私」に通じるか否かということであり、この私についていける道は、この無量寿経を中心とした『浄土三部経(仏説無量寿経。観無量寿経。阿弥陀経)』であり、善導大師、法然聖人、親鸞聖人さらに他の七高僧(龍樹、天親、曇鸞、道綽、源信の高僧の方々)であります。

そして、次の二つのことが大切です。一つは、この仏への道こそ私が救われる道(成仏する)と信じること、二つは間違いなくこの道を歩み得た人がいたということ、を信じることです。

それが親鸞聖人によって示された『正信偈』の内容ですね。前半、「帰命無量寿如来く難中之難無過斯」までが無量寿経を中心とした内容で、どれほど苦難多かつかる見込みのないものこそが救いの目当てと誓われ

た阿弥陀仏の本願だということ。そして後半、「印度西天之論家く唯可信之高僧説」までが、その教えを信じ、得道し、この私まで届けてくださった方々がおられるから、我ひと一同にこの道を信じて歩ませてください。うとのおさとしてです。

「経教は鏡の如し」と言われますが、仏の願い、仏の誓いを聞かせていただくと、今まで外にばかり向いていた私の眼が自然と私の内側に向けられてきます。仏道はそれがなければお経の言葉はどこまでいっても空論でしかありません。

先日、テレビ番組「チコちゃんに叱られる」で、「なぜ幼少児は先生のことをお母さんと呼んでしまうのでしょうか？」と問うていました。それは「児童にとつて、生まれてからずっと一方的な母の愛のなかに育てられているからその育みに身も心も満たされ、すべてをお母さんと呼んでしまうから！」といっていました。

阿弥陀仏の本願というも、誓願というも、すべての人々にかけられた単なる願望ではありません。「本願は真実の親のはたらき(力)が具体的に名号(いつでも我(子)を呼ぶ親の名のり)となつて」常にましますことを表わしています。「なんまんだぶ……」

釈尊がその弟子阿難尊者に説かれた法は、同じ場に居られた未来仏である弥勒菩薩に対し「やがて将来、わたしが示したさまざまなさとりへの道はみな失われてしまうだろうが、わたしは慈しみの心をもって哀れみ、特にこの教えだけをその後いつまでもとどめおこう」と託されたのです。

「本願醍醐の妙薬」と讃えられる所以です。

【寺灯雑記】

○七月の常例法座開催

7/21

七月の常例法座は、久々の平日開催として行われました。

この日は厳しい暑さのため、クーラーの効いた聞法会館にて正信念仏偈のお勤めと大澤直誓師のご法話を聴聞いたしました。

仏さまの「覚悟」というテーマで、阿弥陀さまの願いとはたらきは大きいなる覚悟のもと、私のいのちを包み込んでくださっているとお聞かせいただきました。

○三年ぶりにファミリーパーティー

7/30

コロナウィルスにより中止が続いていた中原寺ファミリーパーティーが三年ぶりに開催され、凡そ七十名程が参加しました。

まずは、近隣の小学校を中心に読み聞かせなどのボランティア活動をなさっている、キヤベツおばさんが登場。紙芝居やパネルシアター、映像に合わせて生演奏が入るなど様々な趣向をこらして、楽しませてくれました。次に登場したのは、講談界の次代を担うプリンス、神田伊織さん。

新作と怪談話と二作を披露いただき、その熱演は参加者を引き込んでいました。

新作では杉原千畝さんの功績を演じられ、続く怪談話「耳なし芳一」では、思わず心臓が縮みあがる思いをされたかたも多かったのでは。

伊織さんはこの秋に二つ目の昇進が決まっているそうで、今後の活躍がますます期待されます。

最期は豪華景品をかけた、ビンゴ大会にて大円段。見事、景品を当てたお子さんの歓喜の姿が印象的でした。

コロナや猛暑で今までとは違う形でのファミリーパーティーでしたが、この日特別に出店したキッチンカーで特製のレモネードやかき氷をいただくなど、参加者のまぶしい笑顔をたくさん見ることができた楽しい一日となりました。



生での講談は迫力満点でした。



仕掛けいっぱいのパネルシアター

【法座・行事のご案内】

☆孟蘭盆会法要

(全戦没者追悼会併修)

八月十一日(木・祝) 午前十時

お勤め…讚仏偈

法話…岩佐准光師(中野区正行寺)

*お盆とは

お盆とは正式には「孟蘭盆(うらぼん)」といい、「逆さに吊るされたような苦しみ」という意味の梵語「ウラバンナ」を漢字で音写したものが通説です。お釈迦さまのお弟子である目連尊者が餓鬼道(むさぼりの世界)でまさに「逆さに吊るされたような苦しみ」を受けている亡き母を救おうと、お釈迦さまに教えを請うたのがお盆の始まりとされています。

浄土真宗におけるお盆は、先立って往生された大切な方々を偲びつつ、この私自身が真実のみ教えに出遇わせていただく大切な仏事です。お浄土へ往生された方々は仏さまとして、いつでもどこでも私たちと共にいてくださり、阿弥陀さまのみ教えに出遇うことを



かき氷や冷たい飲み物に癒されました。

願っておられます。お盆を通して、仏さまの願いを共々に聞かせていただきましょう。

○教行信証を学ぶ(真仏土巻)

八月二十七日(土) 午後二時

○八月のパンダっ子はお休みです。

○婦人会法座

九月三日(土) 午後一時

・ご文章に学ぶ(二帖六通)

*讚寿の会は中止いたします。

☆帰敬式(おかみそり) 希望者受付

・受式日… 十一月十五日 午後又は十一月十六日 午前

・場所…築地本願寺

帰敬式とは、阿弥陀如来・親鸞聖人の御前で浄土真宗の門徒としての自覚をあらたにし、お念仏申す日暮らしを送ることを誓う、私たちにとって大切な儀式です。

この帰敬式を受式され、仏弟子となられた方には本願寺ご住職(ご門主)より法名が授与されます。

毎年、築地本願寺の報恩講中に門主様からお剃刀を受けて法名が授与されます。

希望者は受式冥加金二万五千円を添えて八月末までに当寺へお申し込み下さい。

【八月の掲示板のことば】

お経は死人に向けるものではなくこの私に向けられた教えです

※熱中症と新型コロナ蔓延にご注意を!